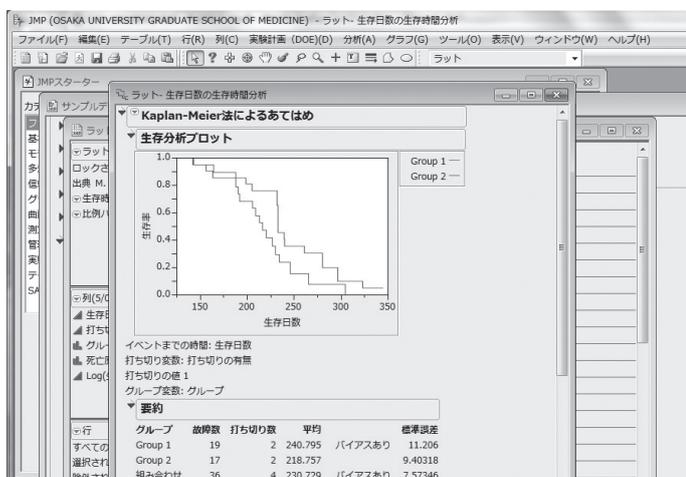


「臨床検査技師にこそ情報教育を！」



測 定データの正確性・再現性を高めるための測定手法あるいは精度管理法などについては、当然のことながら多くの臨床検査技師養成機関で教育されています。

しかしながら、いかに正確なデータが得られたとしてもそれを正しく解析しわかりやすくプレゼンテーションする能力がなくては宝の持ち腐れになりかねません。

自らが持つデータを整理し提示できることは、互いに十分な意思疎通が求められるチーム医療に臨床検査技師が関わり、またさまざまな検討を臨床検査技師として行い発表するとき、必要不可欠な能力です。

大阪大学医学部保健学科検査技術科学専攻では、1年生の前期にさまざまなソフトウェアの基本的な使用方法を教え、1年生の後期には、それらを使って実際にデー

タを解析し提示できることを目標に基本的な統計解析法とプレゼンテーション法を教えています。さらに2年生には臨床データの解析には不可欠となった多変量解析法を中心に実践的な統計解析法を教授しています。

そして4年生になると、臨床実習や卒業研究の発表会でそれらを実践します。私はいま、1年生後期の基本的統計解析とプレゼンテーション法、2年生の実践的統計解析を担当しています。

私 は、解析途中の計算式などを覚えるのは数学者の仕事であるから不要であり、学生（教員も！）の達成すべき目標は、どの解析法を使うべきかを選択する能力を養うこと、コンピュータが計算した解析結果から正しい結論を導くこと、だと考えています。たとえば、二標本t検定を使用すべきかどうかを判断できることは重要ですがt値の計算やp値の計算はコンピュータ任せでよく、計算されたp値を見て結局どういう結論が言えれば合格です（実際、私自身もt値の計算式など全く覚えていません）。試験はなんでも持ち込み可能とし、与えたデータを解析し正しい統計学的結論を導くことができれば合格にしています。

プ レゼンテーション法の演習では、学术论文あるいは学会発表資料の構成や約束事を説明し、見やすい資料や図の作成法などを講義したのち、全員に課題を与えて発表資料を作成させ、パソコンによる数分間のプレゼンテーションとその相互評価を義務付けています。

プレゼンテーション法教育はありそうであまり行われておらず、たとえばポップ体で書いた読みにくいスライドが学会でも散見されるなど我流の資料が多いのが現状ですから、実践すべき重要な情報教育であると考えています。すでに臨床検査技師になった皆さんも、機会がありましたらデータの適切な解析法とわかりやすいプレゼンテーション法を一度見直していただければと思います。

大阪大学医学部保健学科 助教授（学部内講師） 渡邊 幹夫

予告

第31回 緊急検査研究会のお知らせ

日時 平成23年3月26日(土) 16:00～19:00

会場 テクスパia大阪 3F 西研修室

当研究会は、皆様のお陰をもちまして、発足15周年を迎えることになりました。今回、15周年特別企画といたしまして斬新なプログラムでお楽しみいただきたいと考えております。皆様お誘い合わせのうえ、御参加下さいますようお願いいたします。

なお、詳細につきましては、次号（大臨技ニュース3月号）をご覧ください。